

令和3年度 広島市まちづくり市民交流プラザ 第1回運営委員会 会議録

日 時 令和3年7月15日(木) 14時00分～16時00分

場 所 合人社ウエンディひと・まちプラザ（まちづくり市民交流プラザ）

北棟6階マルチメディアスタジオ

出席者 （委員）阿部委員、服部委員、山崎委員、脇谷委員

（プラザ）谷川館長、三次主任

議事及び会議要旨

議事1 運営委員会委員長、副委員長の選任について

運営委員の互選により選任

運営委員長 脇谷委員

副委員長 阿部委員

議事2 令和2年度事業等報告について

事務局から、令和2年度事業実績について報告し、意見が交わされた。

・「パソコン学習支援事業」と「ICT個人学習支援事業」の違いについて教えて欲しい。

○「パソコン学習支援事業」は、3団体のパソコンサークルと一緒に企画・運営している5～6回の講座で、パソコンサークルの方が講師を務めています。「ICT個人学習会支援事業」は、パソコンサークルに加えて、プラザに個人登録いただいているパソコンボランティアで運営しているパソコン学習のフリースペースで、開催時間中に自由に入出入りしてパソコンの使い方等について相談できる個別相談会です。さらに、ボランティアのスキルアップを目指して実施しているのが「パソコンボランティア養成講座」です（2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため「パソコンボランティア養成講座」は中止。）。

・コロナ禍でコンサートなど人気の事業も定員を設けて実施せざるを得ないとのことだったが、規模を小さくした事業や中止した事業など、インターネット（以下、ネットという。）を活用しLINEやZoomでの配信を取り入れて事業を実施すれば、参加する機会を増やすことができるのではないか。場合によっては事業を中止しなくても実施できるなど、これまでになかったコミュニケーションの取り方を探れないだろうか。

・これまでプラザは皆で1か所に集まる集合型の体験学習に取り組んできたが、コロナにより実施できなくなった。それならば、新たな展開としてネットを活用できれば、より広くより多くの人に学習の機会や交流の場が提供できるのではないかと思う。今後、学習や交流を広げる手段として、ネットの活用を体系的に事業に取り入れることができたらいいのではないかと思う。

・社会福祉協議会（以下、社教という。）の様々な活動も、コロナ禍により中止せざるを得なかった。地域の方と一緒に集まれないながらも活動ができないものか検討を重ねていた。その中で、市の取り組みとして社教を通して地域のみなさんへタブレットを配布した。集まれない状況でも情報

を共有できる・つながる手段として活用を始めた。始まったばかりで、なかなか広がりにくいこと、タブレットの整備などの課題もある。

・今の高齢者は積極的な方も多く、地域活動もコロナで様々な催しが中止になると再開や集いを待ち望む声が多くあがった。自粛期間でも高齢者が生き生きと生活できる内容を考える機会になった。地区社協のサロンでは人材バンクを活用してコロナ禍の中でも催しを実施できた。今後も活用したい。

・近年、ICT 活用事業の需要が停滞していた雰囲気があったが、パソコン講座が人気であったことから、コロナ禍によりそれらの必要性の高まりを感じた。自粛生活を続ける中で、ICT を通した人とのつながりを求めているのが伺える。これからのコミュニケーションの手段の1つとして、発信だけではなく双方向の交流の方法など、今後の ICT 学習のテーマになるのではないかと。

・折り鶴を原爆の子の像に捧げる事業（企業等社会貢献活動推進事業）はプラザの外で実施した事業だが、館外に出るとせっかくの取り組みでもプラザの事業と分かりにくくなる。何か PR できる方法（ロゴやマークの作成など）があれば良い。

議題3 令和2年度利用者アンケート結果について

事務局から、令和2年度に広島市が実施した「利用者アンケート」の結果について報告し、意見が交わされた。

・Wi-Fi の整備や回線の安定などの要望については、Wi-Fi ではなく LAN ケーブルを利用したほうが回線は安定する。広範囲であれば、Wi-Fi 中継器を利用すれば範囲が広がる。ただ、利用者が増えることによる回線速度の低下は、機器やプロバイダの契約では限界があるため、利用の制限をかけるなどの方法を取らざるを得ないのではないかと。

・地域福祉センターでは、コロナで施設に集まれない地域の方に、催しものをネットで配信する試みを行った。施設に回線の整備がされていれば地域の催しにも活用できる。

○全ての利用者に公平にネット環境を提供することは難しいのですが、今後、ルータのアップグレードなどできることから対応したいと思います。

・施設の予約方法の改善について意見あるが、地域活動で部屋を借りようと思っても、予約の電話がつながらず困ることがある。

○プラザは「予約システム」を利用して「先着順」で予約を受け付けています。予約システムは、同時に1部屋につき1回線しか入力できません。この1回線に対して、プラザ受付の電話2回線、利用者のネット予約、来館による窓口予約がアクセス可能なため、どうしても競争せざるを得ない状況です。これに代わる理想的な予約方法が無いのが現状で、例えば、「抽選」を行っている施設では、同じ団体の会員ひとりひとりが架空の団体予約 ID を作り、抽選に当たる確率を上げているなどの事例があり、予約方法が違っても課題がある状況です。

・満足度（対応及び清掃）が上がってきているのは有難いことである。今後もこの水準を保っていただければいい。

議事4 令和3年度事業計画について

事務局から、令和3年度事業計画について、新しく取り組む「まちづくり企画・運営ボランティア養成講座」と「地域的・社会的課題解決プログラム」の2事業について概要を説明した。

・勤労青少年ホームが今年度をもって閉館するが、若い層の利用者をプラザに取り込めたらいい。勤労青少年ホームでやっていた事業を取り込むことはできないだろうか。

○勤労青少年ホームとプラザでは設置目的が違うこともあり、事業をそのまま継承するのは難しいです。

・勤労ホームや青少年センターで活躍してきた若者が、今、NPOや市民活動団体の第一線で活躍しているケースがある。若者層の活動を育てる施設が無くなるのは残念に感じる。

・ボランティア養成講座を予定しているとのことだが、核となるような人材が育ってくれればいいと思う。動画作成講座にしても、フェスタの実施にしても、事業の運営にボランティアや、カウンターパート（対等な立場でひとつのプロジェクトに携わるパートナー）のような存在があるといいのではないかと思う。例えば、大学も学生のボランティア活動を積極的に進めている。そういった機関と共同して事業を行えたら面白くなるのではないか。

○フェスタも運営方法で試行錯誤してきました。ボランティア養成講座の参加者を、フェスタの運営に取り込み、新しいアイデアや関わり方ができたらいいと思っています。また、コロナ禍の中で団体の活動もしにくくなってきているため、プラザの事業を通して、団体活動のPR等を支援していきたいと思っています。

議事5 まちづくり市民交流フェスタについて

事務局から、まちづくり市民交流フェスタの実施について、令和2年度はコロナのためフェスタは中止したが、今年度は規模を縮小して感染症拡大防止対策を取りながら実施する予定であるため、対策や変更点などを含めて説明し、意見が交わされた。

・フェスタは実施の方向でいいのではないか。

○感染症拡大防止対策の1つとして、「ステージ発表部門」と「展示・体験部門の」開催場所の入れ替えを検討しています。これにより、「ステージ発表部門」では人と人の間隔の確保し、人の流れの管理をできるようにしたいと思っています。

・感染症拡大防止対策と、人が流れにくい「展示・体験部門」を目につきやすい南棟1階に持ってくるのはいいのではないかと思う。

・人の流れを作るのであれば、例えば、北棟を入口・南棟を出口（またはその逆）に設定すれば順序良く回れるのではないか。

・北棟の出入口付近、道行く人たちにギャラリーなどの催しの賑やかさをモニターなどで映せたらいいと思う。学生ボランティアにお願いして、ネット配信などで様子を流せないだろうか。発信するツール（例えば、Zoomで配信しつつYouTubeで保存する、など）を活用できたらいい。

・コロナ対策で規模を縮小することだが、応募方法について基準を定めて限定的な募集を行ったほうがいいのではないか。

○例年、「市民と市政」等を活用して広く募集を行っていたが、今年度は、過去2回参加した団体を対象にしたいと思っている。また、「ステージ発表部門」については一般団体の募集は行わず、人材バンク登録者を優先したいと思っている。

(実行委員長は互選により決定)

実行委員長 阿部委員

第一回実行委員会 9月9日(木) 19:00~21:00

【次回の運営委員会】

フェスタ終了後の11月予定

閉会